

以外の仕事に関して受け答えした。

生徒らに対し、新鮮便（伊勢崎市）の佐藤稔也社長は「心を込めて、気持ちをつなぐのが物流の仕事。ドライバーだけでなく、倉庫や運転席に乗車し、死角を確認した。

須田氏は「卒業後は進学する生徒も多いが、物流という仕事を知ってもらうためのきっかけをつくれたら。将来的に物流業界を選択肢の一つにしてもらいたい」と話した。（ダシルバ・サミー）

## ドライバー24人表彰

### 前橋支部 事故防止へ総決起

群馬県トラック協会の前橋支部（関口宣男支部長）は10月24日、交通事故・労働災害防止総決起大会を開催した。無事故・無違反を5年間継続した優良運転者の表彰はあ

ライ運転拠を前提事業

について説明した。生徒は運転席に乗車し、死角を確認した。

須田氏は「卒業後は進学する生徒も多いが、物流という仕事を知ってもらうためのきっかけをつくれたら。将来的に物流業界を選択肢の一つにしてもらいたい」と話した。（ダシルバ・サミー）




## コラボ

### 攻歌を制作

### ホーショー

PE

ンした楽曲とミュージックビデオ（MV）を通じ、社員の個性や特技を生かした独自の企業PRを展開している。社員が楽曲制作に参加し、鎮座さんも輸送現場を体験。音楽を通じて社内の一体感を高めるとともに、企業のイメージアップにもつなげる。

原島社長と同社のドライバー、西村玲巨（れお）さんは学生時代からの音楽仲間で、鎮座さんとも当時から交流があり、その縁を生かして企画を実現した。原島氏は学生時代、仲間とヒップホップのイベントを主催し、自らも楽曲を披露するなど本格的に活動していた。西村さんは現在も「B．T．Reo 440」名義でラッパーとして楽曲制作やライブ活動などを行っている。

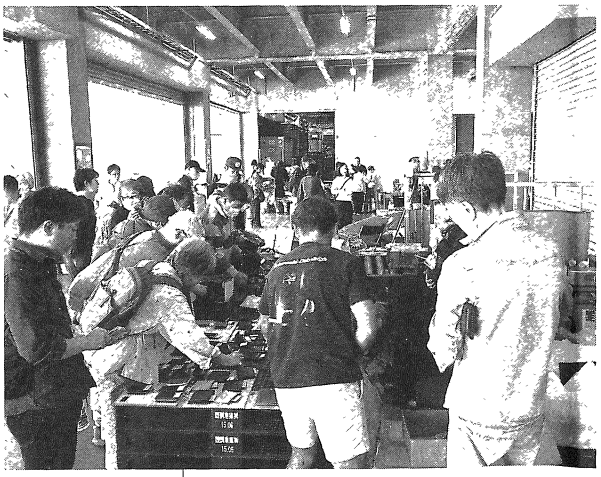
鎮座さんは即興ラップの全国大会で優勝経験を持ち、人気アーティスト、ケ

HPにMVとショートムービーを

## 醍醐倉庫「蔵出し市バザール」

## 荷主などブース

### 近隣住民から好評



醍醐倉庫（醍醐正明社長、東京都大田区）は10月17日、「道々橋の蔵出し市バザール」を開催した。同社の倉庫を利用する荷主企業などがブースを出展し、衣服やアクセサリーを販売した。

毎年の恒例行事で、荷主企業の滞留した商品などを特別価格で販売している。それまで行っていた、地域の企業を中心に出店してもらうイベントに代わる形でスタートした。

大田区の本社周辺の地域住民を中心に多くの人々が参加する盛況ぶりを見せており、近隣の住民がバザールの開催日を確認するため本社を訪れることもあるという。荷主企業のブースのほか、焼き鳥や焼きそばなどの屋台も出た。

また、大田区の町工場が中心となってボブスレーのそりを制作する「下町ボブスレープロジェクト」のブースを設けた。

来場者には抽選券が配布され、1等でプリペイドカードが当たる抽選会も実施した。このほか、スーパーボールすくいや、初開催となるフォークリフトの操縦体験も行った。

イベントは地域貢献として大きな役割を担っている。醍醐社長は「流通加工をやってもらうパートさんを雇っている。地域あっての事業経営だ」と感謝を示す。また、同社が得意とするパーソナルギフトの流通加工を生かし、2027年はギフトの包装体験なども検討している。（加藤紀之介）

衣服やアクセサリーなどをブースで販売

## 体験入社し業務同行

### 鎮座さん

原島氏は「ドライバーには音楽やカメラなど、さまざまな特技を持つ社員がいる。自分たちが発信できるのは音楽ではないかと考え、社歌を作ろうというところから始まった」と振り返る。

ただ、社内にはヒップホップに関心のない社員もいるため、一部の社員だけの企画と受け取られないよう配慮。全社ミーティングで、企業の連呼発言も社内

バムの収録曲にゲスト参加したり、YUKIさん、森山直太朗さんらと共演したりしている。

2023年に制作した楽曲「Anthem（アンセム）」は、トラックドライバーへの応援歌。西村さんが鎮座さんとともに作詞・歌唱し、作曲も担当した。

活性化を図る狙いなどを説明し、会社として予算を投じる意義を共有した上で制作を進めた。

鎮座さんには「ドライバーが仕事中に聴き、自分を奮い立たせられるような応援歌にしてほしい」と依頼。鎮座さんは一日体験入社し、午前5時から午後5時まで西村さんの業務に同行した。トラックの洗車や荷締め作業なども体験し、トラックに乗車中、歌詞を

書き留める姿も見られたという。

MVには体験入社時の作業風景やドローンによる空撮映像などを盛り込んだ。公開前のライブイベントでは、鎮座さんと西村さんが「Anthem」を披露。社員も会場に足を運び、普段はヒップホップになじみのない社員からも「かっこいい」と好評で、社員の結束を強める機会となった。

原島氏は「対外的なイメージアップに大きな手応えがあった」と話す。MVは現在もホームページ（HP）に掲載し、動画投稿サイト「ユーチューブ」でも公開中。第2弾のコラボ企画も検討している。（北原進之輔）